

## 市内の小学校で英語を学ぶ授業が本格的に始まりました

### ★進む小学校での外国語学習

国は平成20年に学習指導要領(注)を改訂し、小学校では今年4月から新しい学習指導要領による授業が始まりました。

この新しい要領にもとづいて、新たに小学5年生と6年生を対象に年間35時間の英語を中心とした外国語活動を授業として行うようになりました。市内の小学校でも4月から外国語活動が始まっています。

新たに始まった外国語活動では、単に単語や文法を学ぶのではなく、英語を使って積極的にコミュニケーションをとる楽しさを学びます。また、日本と外国の文化の違いを体験して理解できるようにさまざまな活動を行います。

市内の小学校では、これまでも英語力のある市民や市民団体の協力を得て、国際理解教育の一環として総合的な学習の時間などで英語を体験する学習を行ってきました。

昨年は、新千歳空港のある千歳の特色を生かした授業に取り組みました。子どもたちは、新千歳空港国際線ターミナルビルで空港を利用する外国人に積極的に話しかけ交流する体験授業に挑戦しました。身振りや手振りを交



▶信濃小学校での英語授業の様子。あいさつなど会話を中心にした授業が進められます。子どもたちはクイズやゲームなどを楽しみながら英語に親しみます。

↓向陽台小学校児童の外国人への話しかけ体験授業。子どもたちは外国人とのふれあいにどきどきしながらもしっかりとした声で自ら話しかけ、英会話に挑戦します。



えながら英語で自分の意思を伝え、英会話を実践しました。後日、交流した外国人から学校に手紙が届くなど、国際交流のきっかけにもなっています。

#### (注)学習指導要領

全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、国が法律にもとづいて各学校が教育内容を決めるときに基準を定めたものです。

### ★外国語指導助手から外国を学ぶ

市は、昨年、学校での外国語活動を支援するALT(外国語指導助手)としてイギリス人の方1人を、今年には新たにアメリカ人とカナダ人の方2人を採用し、各小学校の外国語活動を進めています。

ALTの皆さんは、クラスの担任の先生とともに、身近な話題などを取り上げながら特色のある体験的な外国語活動を行います。また、授業に限らず給食時間や休み時間なども子どもたちと過ごすほか、さまざまな学校行事にも積極的に参加し日常的に子どもたちと交流を深めます。子どもたちにとって外国の文化や習慣を体験的に学ぶ貴重な機会になっています。

このほか市内の中学校には、アメリカ人のALT2人が各学校を回り、外国語活動を支援しています。

市は、子どもたちがALTの支援で生きた外国語を学び、国際的な視野をもって成長できるように教育を進めています。